

平成21年2月19日

平成21年2月13～14日

富士山周辺で発生が懸念されたスラッシュ雪崩に関する報告

国土交通省

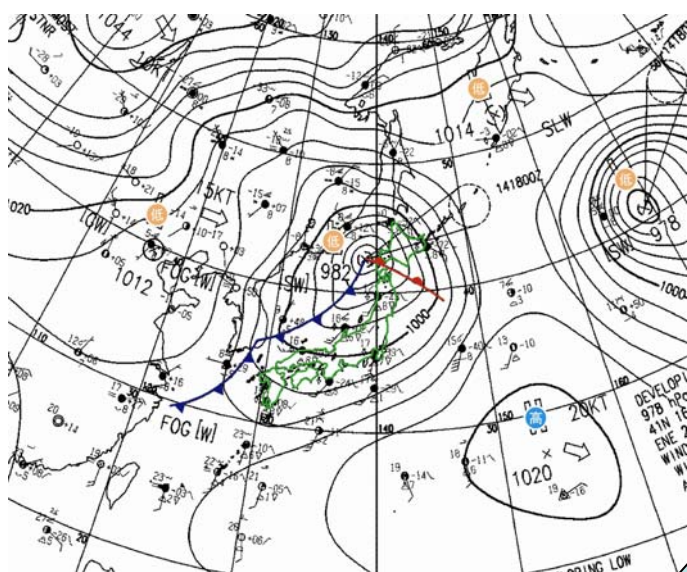
中部地方整備局

富士砂防事務所

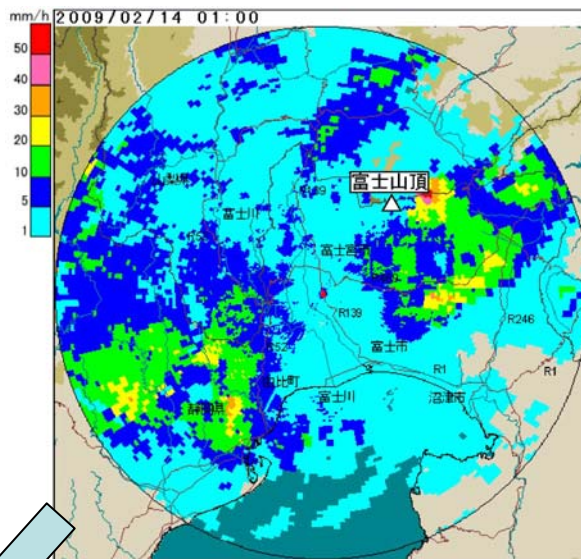
1. 概要

平成21年2月13日～14日にかけて、気象台の天気予報や観測機器のデータより、富士山周辺でスラッシュ雪崩の可能性が大きくなったものと判断し、カメラによる監視及び天候回復後にヘリコプターによる上空から発生状況調査を実施しました。

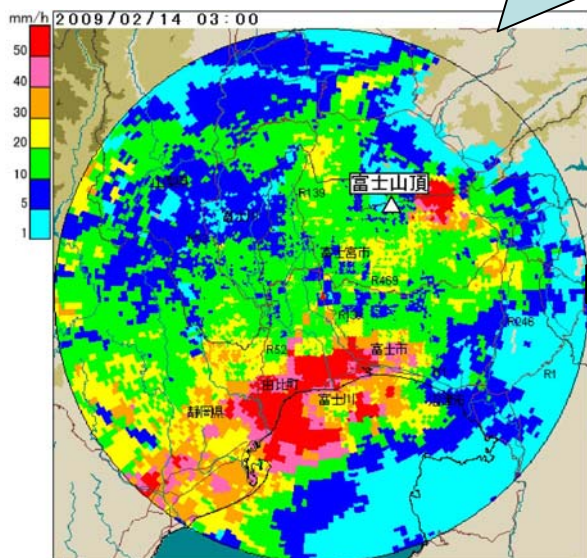
結果、カメラによる監視では異常は確認されませんでした。また、ヘリコプターによる調査では、富士山東側斜面で雪崩の痕跡が見られたものの、スラッシュ雪崩の発生による被害は確認されませんでした。



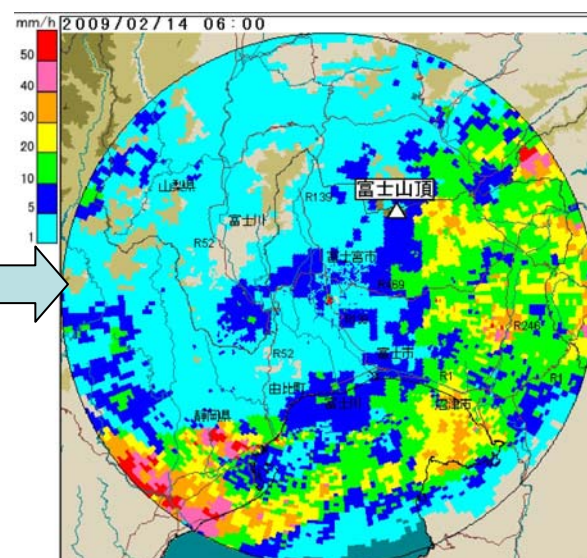
実況天気図 H21.2.14 3:00 (気象庁提供)



富士砂防レーダ画像H21.2.14 1:00



富士砂防レーダ画像 H21.2.14 3:00



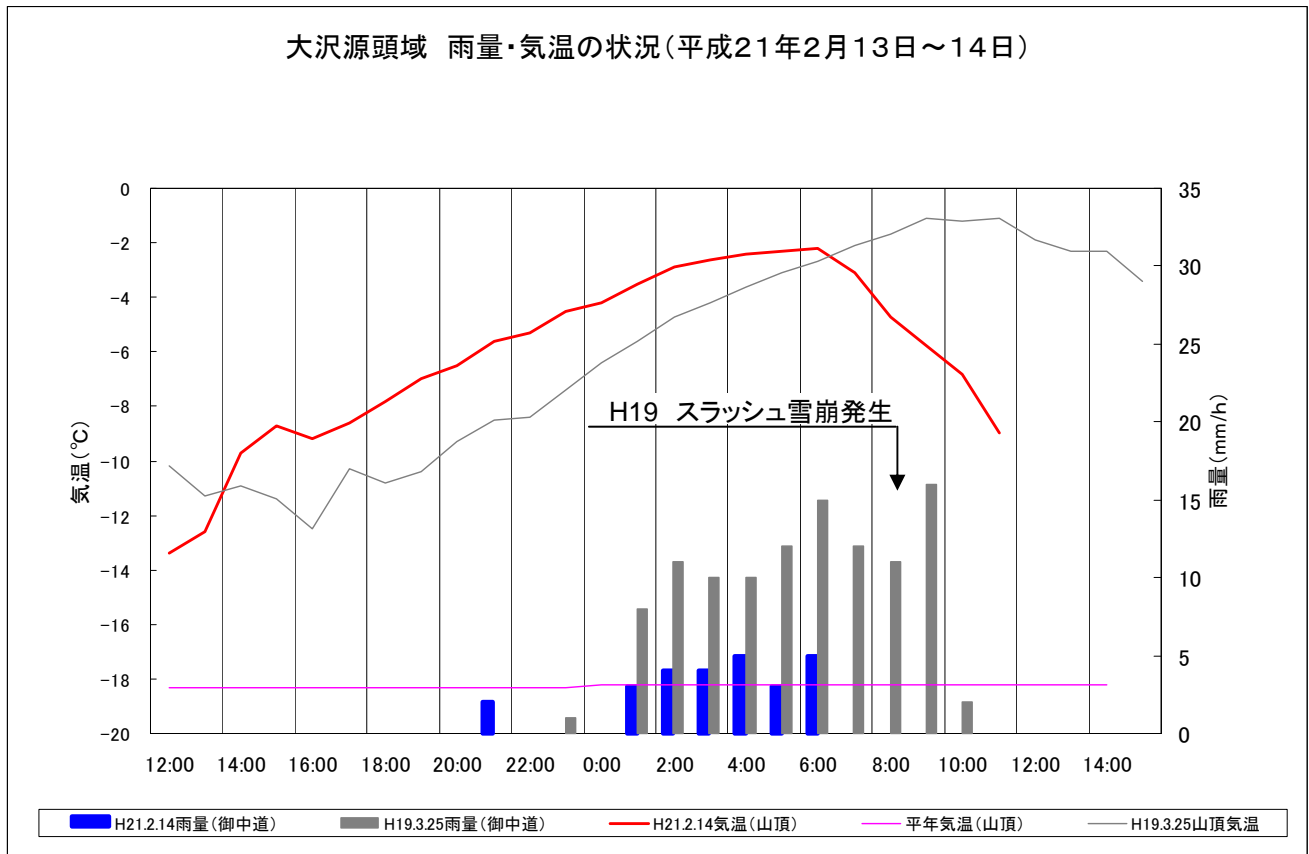
富士砂防レーダ画像 H21.2.14 6:00

2. 気象・降雨状況

平成21年2月13日～14日にかけて、富士山頂の気温は13日の最低気温マイナス13.4度からマイナス2.2度まで11.2度も上昇。

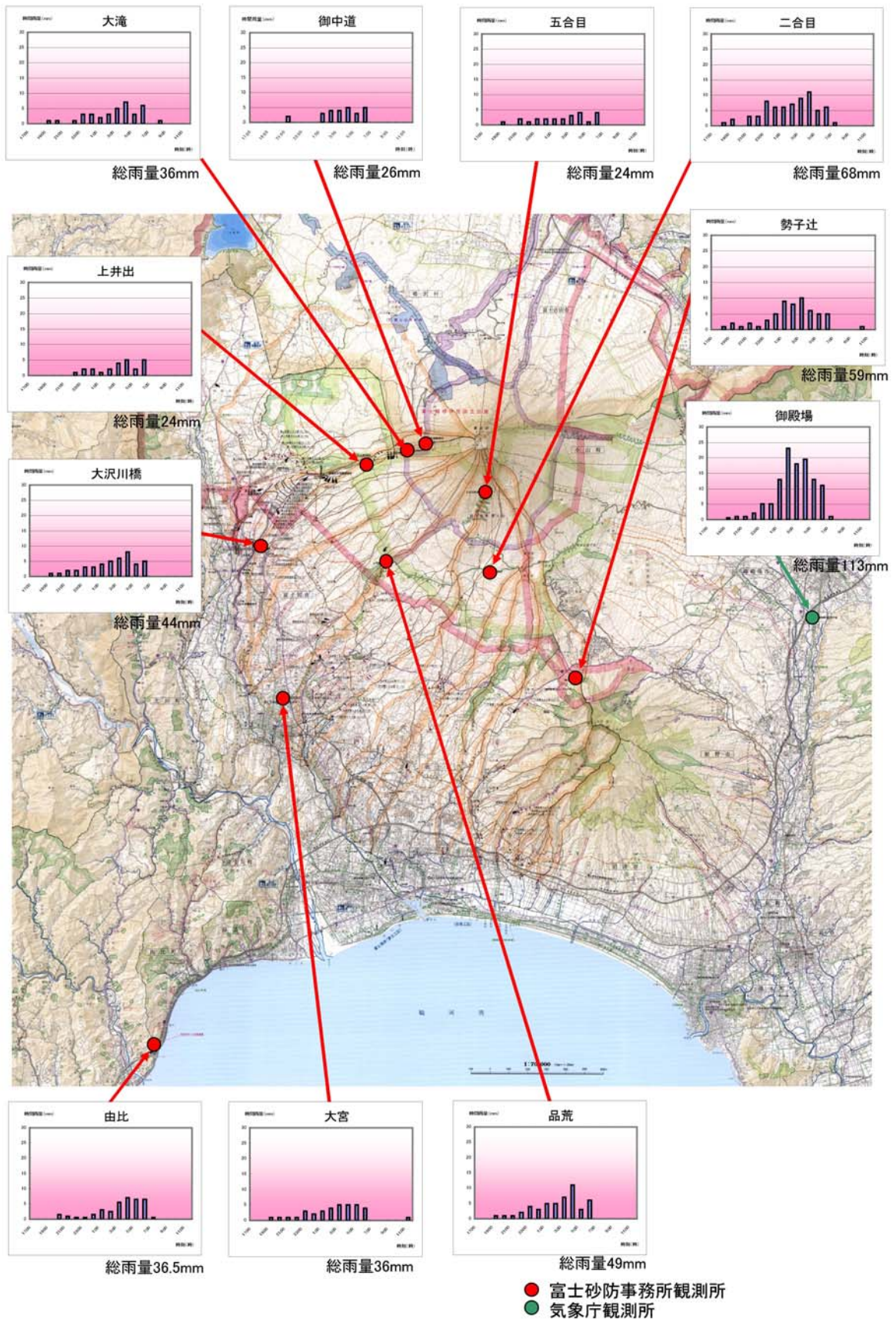
降水量は富士砂防事務所 御中道観測所(標高2,350m)で連続雨量26mmを観測。(降り始め13日21時、降り終わり14日6時)

(1) 富士山頂気温と御中道観測所における雨量



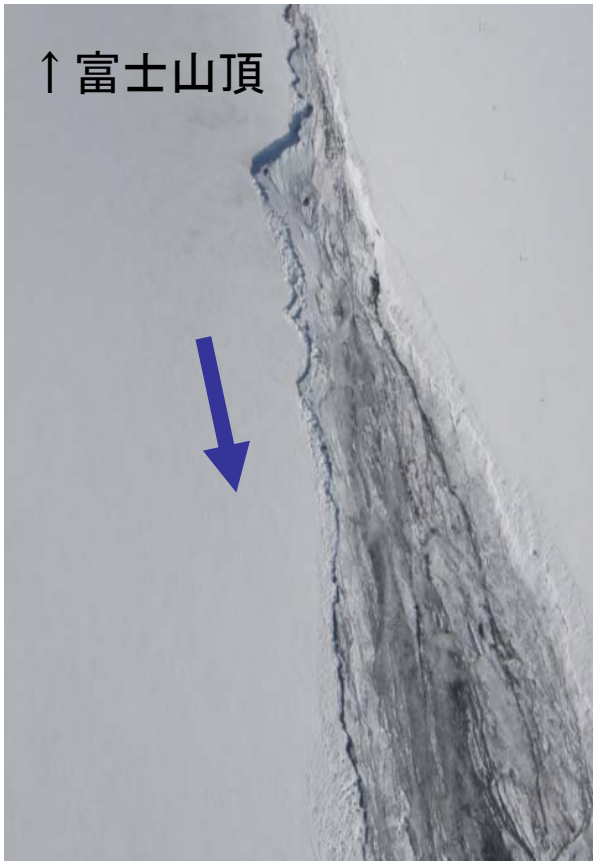
平成19年3月25日のスラッシュ雪崩発生時(灰色棒グラフ:雨量、灰色折線グラフ:気温)と比較しています。気温の上昇傾向が似ているものの、雨量は少なく、(大沢川上流の御中道観測所の連続雨量は26mm)このため大規模なスラッシュ雪崩や土石流が発生しなかったと考えられます。

(2)管内の降雨状況



3. ヘリコプターによる調査結果

ヘリコプターにより富士山周辺を上空から調査した結果、富士山東側斜面(太郎坊周辺)で雪崩の痕跡を確認したものの、スラッシュ雪崩による被害は確認されませんでした。



富士山東側斜面雪崩痕跡状況



ヘリコプター(まんなか号)



飛行経路等打合せ状況



位置図

雪崩痕跡確認箇所

4. 富士砂防事務所 対応経過

富士砂防事務所の対応は次の通りです。

日時	富士砂防事務所の対応
2月13日 15:00	気象台の天気予報より、スラッシュ雪崩発生の可能性が大きくなると判断し、スラッシュ雪崩発生に注意を呼びかける記者発表を実施
2月13日 17:00	準備体制 CCTV、気象情報に関して監視を実施
2月14日 12:00	ヘリコプターによる上空からの調査
2月14日 15:00	準備体制解除 スラッシュ雪崩発生に関して、監視・調査結果の記者発表

5. 報道状況

静岡新聞平成21年2月14日(朝刊)

富士山周辺 スラッシュ雪崩の恐れ
国交省富士砂防事務所
「山ろくの溪流注意」
砂防事務所
 静岡、甲府両地方気象発生の可能性が高くなっ
 たが十三日、富士山を含まずとして、警戒を呼び掛
 む地域に「恐れ注意報」を出している。
 を発表したことを受け、同事務所によると、ス
 国土交通省富士砂防事務所「スラッシュ雪崩は、雪が積
 所(富士宮市)は、同日もった場所に急激な気温
 から十四日にかけて富士山昇りやまとまった降雪が
 山周辺でスラッシュ雪崩あるで発生しやすくなる
 という。最近では、平成
 十九年三月二十五日に富
 士山南西部で発生し、流出
 した雪や土砂が富士宮口
 の富士山スカイライン登
 山区間をふさいだり、新
 五合目の施設を流出、損
 壊させたりする被害が出
 石流となることもある。

た。
 同事務所は「過去に発
 生したときの気象状況に
 似ている。下流市街地に
 まで影響が及ぶことはま
 れだが、富士山ろくの溪
 流には近づかないなどの
 注意が必要としている。

スラッシュ雪崩は、大
 量の水を含んだ雪が流動
 する現象。流下の途中で
 土砂を巻き込みながら土

静岡新聞平成21年2月15日(朝刊)

清水区で26・8度
県内全域5―7月並み
 北海道付近の低気圧に
 向かって南から暖気が流
 れ込んだ十四日の県内
 は、大半の観測地点で最
 市清水区と駿河区、熱海
 市網代の三地点では二五
 度を超す夏日だった。
 静岡 静岡地方気象台の観測
 二度、熱海市網代二五・
 四度、三島市二四・八度
 浜松市中区二一・五度な
 ど。ほぼ全域で五月から
 七月並みだった。

気象庁によると、全国
 で二月の観測史上最高を
 記録した地点は百カ所以
 上。急な気温の上昇を受
 けて同行は、富士山や積
 雪の多い地方はなだれに
 注意が必要としている。

十五日の気温は引き続き
 高めに推移する見通し。
 十六日以降は週半ばにか
 けて平年を下回り、冬の
 寒さが戻るとい。

スラッシュ
 雪崩の痕跡

富士山東側斜面
 国土交通省富士砂防事
 務所は十四日、富士山東
 側斜面の標高三三〇〇
 付近で、小規模なスラッ
 シュ雪崩とみられる痕跡
 が見つかったと発表し
 た。雪崩の発生による被
 害は確認されなかったと
 いう。

同事務所によると、雪
 崩は十三―十四日の間に
 発生したとみられる。同
 事務所が十四日午後ヘリ
 コプターで調査して確
 認した。